

(3) 畜産経営の展開方向について

想定課題

国会等の移転に伴う都市化の進展により、畜産環境対策に力を入れざるを得ないことが懸念されるが、その対策及び畜産の展開方向はどうするべきか。

対応方向

那須地域は、優良な草地基盤等に支えられ酪農肉用牛を中心に畜産経営が盛んな地域であり、特に酪農は全国有数の生産基地となっています。

そのため、国会等の移転によって都市化が進展すると、畜産経営への影響が懸念されますが、平成 11 年 7 月に「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」が制定され、平成 16 年 10 月までに一定の基準を有する管理施設を整備することが定められたことにより、畜産環境対策は、国会等移転の有無に関わらず、安定的な畜産経営の継続のため、不可欠なものとなっています。

今後は家畜排せつ物処理施設の整備が急速に進むことが予想されますが、この際、脱臭あるいは新エネルギー利用等の新技术を積極的に活用した施設を整備するとともに、家畜排せつ物からできる堆肥の有効利用が必要になってくると考えられます。

那須地域は、畜産のみならず水稻を始めとする耕種農業も盛んな地域であるため、地域内で生産される堆肥を地域内の耕種農家で利用するという有機質資源の地域内循環は十分可能であり、こうして生産された安全な農畜産物を都市住民に提供することができます。

また、牧歌的な風景を活用した憩いの場の提供などにより、畜産経営発展のための新たなビジネスチャンスとなるのではないかと期待されます。

那須地域であれば、オーストラリアの首都キャンベラのように、都市の周辺で牛が悠然と牧草を食んでいる光景を実現することは十分可能でありますことから、国会等の移転に当たりましては、自然環境と共生し、都市と農村が調和するよう、那須地域の特徴である大規模酪農地帯の特性を生かした総合的な都市づくりを研究していくべきであると考えます。

『酪農地帯の目指すべき展開方向』

【イメージ】 都市及び環境（自然・生活）と共生した酪農地帯

1 目指すべき展開方向

新鮮でおいしく安全な牛乳・乳製品の供給拠点

- ・新鮮でおいしい牛乳の生産
- ・地域内での牛乳生産・乳製品加工
- ・地域内での販売体制の整備
- ・新都市ブランドを生かした地域外流通
- ・飼養管理方式の改善

国会都市勤務者、来訪者及び近隣住民等の憩いの場

- ・「牛が草を食む」景観
 - ・拠点的なふれあい牧場の整備
 - ・牧場地区全体の公園的整備
 - ・酪農経営へのサービス・教育的要素の導入
- 自然循環機能を生かした家畜ふん尿の有効利用
- ・地域連携による良質な堆肥生産及び発電
 - ・地域内での循環系の確立

2 地域の将来イメージ図

